発達障がい児と家族のための家族支援

作成：特定非営利活動法人 Paka　Paka

第１期での報告・課題点

【家族支援】

個別発達支援型（個別育ち教室）

：利用家庭 13 名（令和 2 年 12 月 20 日現在）

年間予定者：42 件/44 件（令和 3 年 3 月末）待機者：2 名

利用満足度：平均 96.6 点

関係機関へ繋げた家庭：２名

課題：当初武豊町においてあおぞら園に繋がっているのは障害程度が中度以上で支援が必要な子であり，それ以外は支援が必要か曖昧な児童が多いと予測していた。しかし，現状としては，9 割以上の児童と家庭は直接的な発達支援が必要と思われ，中には地域の保育園では対応が困難な児童もおり，小学校以降の集団生活がより困難と予測される児童も見受けられた。また，子どもに接して支援するよりは，保護者に対して子どもの接し方の見本を見せながら，子どもの理解を促し，どのように子育てを心掛ければいいかの疑問に答える個別のペアレント・プログラムの要素が強かった。

個別相談：2 件

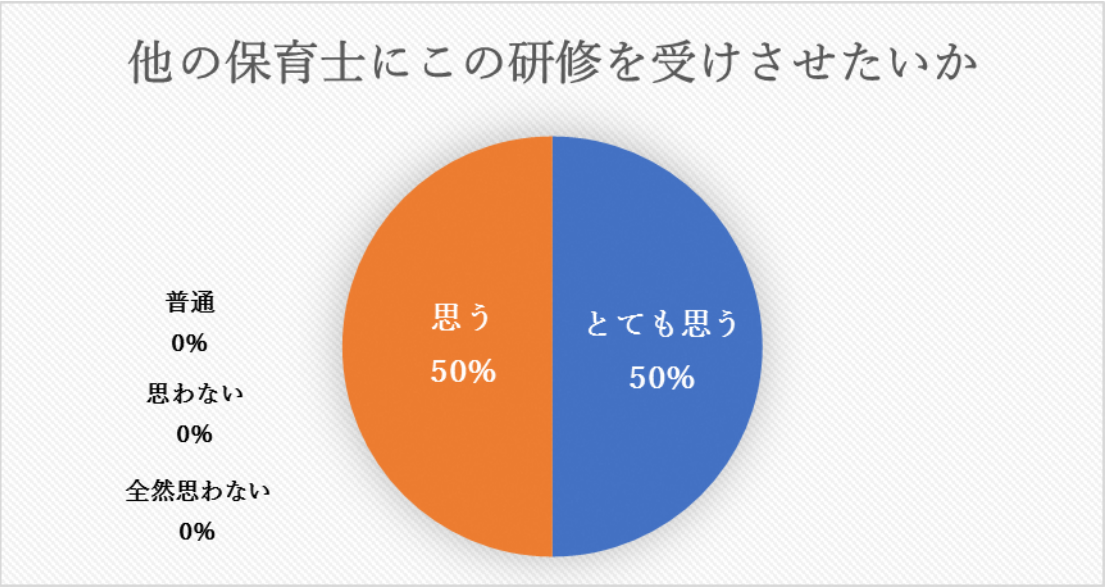
ペアプロ：コロナの影響で令和 3 年 1 月に規模を縮小し実施予定。現在参加者は定員に満たしている。

【地域支援】

研修：コロナの影響で実施の見通しが立てられなかったが，子育て支援課のご厚意で，コロナ禍で中止になった中堅保育士の施設見学の代替えとして，対象を変更し規模を縮小し実施。11 月～12 月まで

保育園訪問：年度初めに研修を実施出来なかった影響もあり，相談件数はなかった。

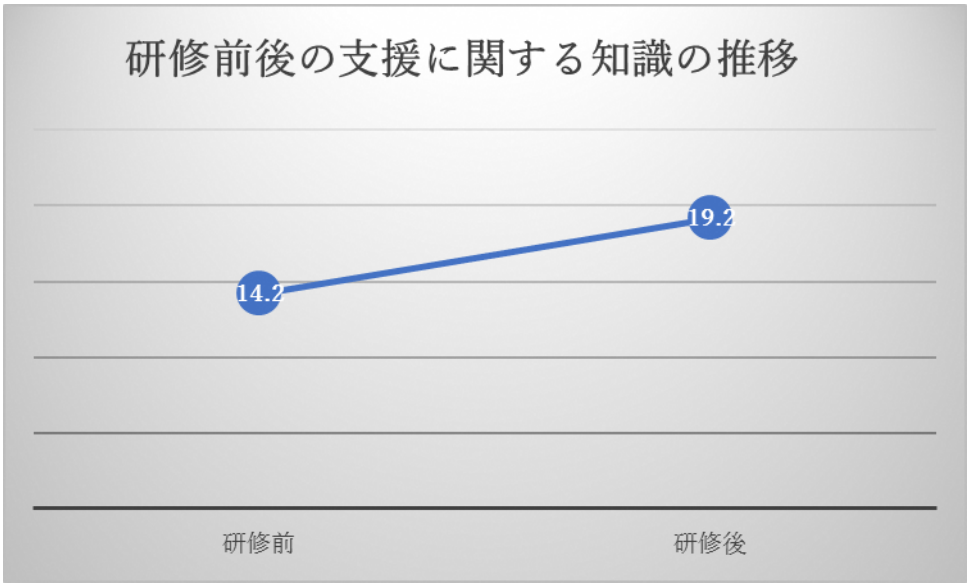
研修参加満足度：平均 93.3 点



感想（自由記述）

- 実際に関わっている子を例に問題行動など考えることができたのですぐに保育現場に生かすことができた。また自分の考え方もいろいろな角度から考えようと思えるようになった。現場で子どもと対応していると立ち止まって考えることができたいために迷ったら一度立ち止まり行動や前後を見直したいと思います。
- 実際に問題行動に記録を取って考えていくことで実践しやすくわかりやすかった。
- 今回の研修を受けたことで他クラスの木になる子どもの話を，他の先生たちと共通理解をすることができ，また子どもの行動には理由があることがよく分かりました。1 人の子どもに対して詳しく考えていくきっかけが学べたと思うので自分のクラスにおきかえ色々な子どもの対応も考えていきたいと思います。
- 対象児について記録をとって細やかに分析することで，より深く子どもを捉えることができた。3 回に分けて研修したことで次回何をしたらよいのか分かりやすかった。問題行動の分析，解決を具体的にできるのが良かった。
- 今までの経験や研修を通して行って来た自分の保育を，専門用語を使うことで具体化できるようになってきたと思います。
- 今回の研修で対象児を観察し援助を加配の保育士先生と話す機会が増えました。自分の目線だけでなく改めて加配の先生の目線で考えを聞くことで子どもの多面的に捉える事ができました。ありがとうございます。

支援知識に関する推移



【考察】

8 年目の保育士のため，一定の経験があったため知識の吸収が早くまた保育現場での応用ができ平均点が 5 点伸びていた。保育士は「気持ち」で捉えがちだが気持ちだけでなく「行動」を見ることで対処方法の幅が増えていることが学べていると思われる。

【総括】

コロナ禍の影響を受けたとは言え，一部分ではあったが，個別発達支援やペアプロ・研修を実施できた。当然のことであるが，保護者自身が子育てにおいてどのように接し，どのような受け皿があるのか，今後どのようにすればいいのか先を見えていない保護者が多く，肯定したくないナイーブな問題でもあるため，最初の一歩が出しにくい保護者が多いように感じた。そのため，保育園以降に家族・児童が困らないような支援に繋がるきっかけ作りを，現在のサポート以外にも何重にもすることが重要に感じる。

一方，障害児の関連する行政機関が健康課・子育て支援課・福祉課と別れており，まとめながら地域課題に対して対応する中核的な役割を持つ機関があればと感じた。

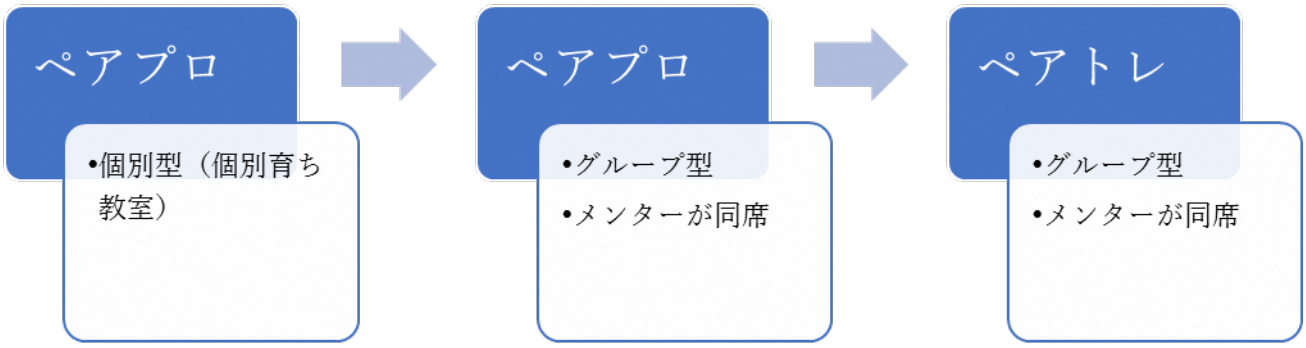
第２期の事業計画方針

上記の地域課題からも今後，より一層支援の枠を広げると同時に家庭・地域での支援能力を上げることが必要不可欠だと考えられる。限られた予算の中で最優先に考えられるのは，家庭への対応であり，第１期同様家族支援を重点に対応する。また地域支援においては，来年度以降当法人が保育所等訪問支援を実施するのでその枠内で対応していくこととする。

【事業内容】

① 家族支援：下記の講座を実施する。

- 『ペアレント・プログラム』: 保護者が子育てに不安を感じたり、子どもの発達が気になった段階での、最初のステップとして開発された講座。
  - 個別発達支援型（個別育ち教室）：1 歳半健診後から児童発達支援機関に関わるまでの発達障がい児またその恐れがあるに対して心理師等が無料にて助成期間（令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 30 日）月 2 回 10:00～12:00 の間，個別発達支援を実施する。多くの子を利用してもらうために，利用制限として 1 回 1 時間，計 3 回（①発達の見立て②発達支援実施③まとめ）とする。但し前期，後期で分け場合によっては実施を検討する。
  - グループ型：1 回 2 時間で計 3 回の連続講座を実施する。児童発達支援センターに移行予定のあおぞら園と合同で実施する。
- 『ペアレント・トレーニング』: 子育てに取り組む保護者が、その役割を積極的に引き受けていくことができるよう、保護者と子どもを支援するために開発された講座。1 回 2 時間，計 4 回の連続講座を実施する。児童発達支援センターに移行予定のあおぞら園と合同で実施する。
- 『ペアレント・メンター』（ピア・サポーター）の参加：保護者には専門家からの助言だけではなく，同じ経験を持つ保護者からの情報提供や傾聴が精神的なストレスを軽減されるとされるために，ペアレント・プログラム，ペアレント・トレーニングは可能な範囲でピア・サポーターが同席し，必要な場合は傾聴や情報を提供する。
- ピア・サポーターの精神的フォロー：ピア・サポーターも障害児を抱える保護者であるため年 2 回精神保健福祉士を呼んでフォローを実施する。



【実施場所】

保健センター等児童に関する公共施設

【対象者】

個別型：1歳半健診後から児童発達支援機関に関わるまでの発達障がい児又はその疑いがある乳幼児

グループ型：1歳半から学齢期（小学校低学年）まで発達障がいがある又はその疑いがある児童を持つ保護者

【事業内容】

② 人材育成：発達障害児の保育を行う保育士向けに研修を実施する。

困り感への行動支援研修：発達障がい児の有効とされるPBS（ポジティブな行動支援＝「褒める」を中心とした支援）の要素を保育士に向けに取り入れた講座を実施する。また，保育士育成において知識と技術は併用しないと現場では応用されにくいために，この講座では参加保育園での事例を元に実施し， 可能な範囲でICTを活用する。1回2時間の計3回。

【事業PR方法】

発達障がいに気が付くまたは悩む時期の保護者は，孤立化しているもしくは抑うつ傾向が強く，チラシや広報だけでは参加が見込みにくい。そのため，最初の敷居を限りなく低くするために，個別発達支援からペアプロ，ペアトレのようにStep upできる仕組みを作り講座に参加するきっかけを作る。

それ以外にも，①各支援機関でのチラシの掲載・広報②対象保護者へ配布③定期的な行政広報誌に記載④当団体のWed上にて事業を告知する。

また保育士向け研修においては，子育て支援課より各園の中堅以上を1名参加できるように促す。